

第2回 福岡県まちづくり実行委員会 活動報告

報告日 2005年12月3日(土)

報告者 労組名: 岩田屋ユニオン 氏名: 大津 人仁

開催日 2005年11月29日(火)

開催場所 岩田屋久留米店組合事務所

参加者

名前	単組名	備考
鈴木 彰	伊勢丹労働組合小倉伊勢丹支部	
坂田 博明	岩田屋ユニオン	
保坂 明子	岩田屋ユニオン	久留米商店街ブランド研究会メンバー
大津 人仁	岩田屋ユニオン	福岡県実行委員長

内容

1. 久留米商店街地域ブランド研究会参加中間報告

目的

近年、全国各地の商店街は「元気がないな」と言われています。久留米の商店街も同様で、空店舗の増加や売上の減少が懸念されています。その一方で、六ツ門地区では、昨年9月に空店舗を利用した市民大学「六ツ門大学」が開講し大好評で、多くの受講者がこの地区を訪れるという来街効果を生み出しています。

このように、今、商店街には、新しい魅力が求められています。それは、商品なのか、お店独自の取り組みなのか、それとも商店街全体の雰囲気なのか。それを今回「商店街地域ブランド研究会」で考えることになりました。

商品やお店に地域性(久留米らしさ・商店街らしさ)や統一感を持たせると、他の地域とは違う「個性」を分かりやすく表現することができます。そこで「商店街地域ブランド研究会」では、このような「個性」を持った、商店街「独自」のものを『商店街ブランド』と位置づけて、新しい商店街の魅力として取り入れ、中心市街地の活性化を図っていきます。

効果

効果として、次のものが考えられます。

活動を通じて人的ネットワークおよび地域コミュニティの構築
商品の購買及び買物以外に楽しめる仕組みづくりによる来街促進
商品への安心感や取り組みへの理解から生まれる商店街への信頼
統一感の創出による商店街のイメージアップ

研究会の概要

メンバー

商店街のお客様の80%以上は女性です。そこで、メンバーは女性で構成します。まず、売り手であると同時にお客さまの立場でもある商店街のおかみさん、商店街で活動しているNPO、デザイナーや百貨店の方など、商店街をバックアップしてくれる様々な分野の方を予定しています。また、会議の進行・コーディネーターとして、まちづくりのプロが毎回参加します。

1	おかみさん会	黒岩洋傘店（六ツ門あけぼの商店街）
2	おかみさん会	萃香園ホテル
3	おかみさん会	株式会社よしの園（六ツ門商店街）
4	おかみさん会	株式会社しかた（六ツ門商店街）
5	おかみさん会	株式会社モードとよしま（六ツ門商店街）
6	百貨店	株式会社岩田屋
7	百貨店	株式会社久留米井筒屋
8	NPO	NPO法人シニア情報プラザ久留米
9	デザイナー	有限会社ティーズデザイン
10	デザイナー	リビングT&S
11	ローカルメディア	ドリームスFM放送株式会社
12	消費者	主婦
13	商店街	風のおくりもの（一番街商店街）
14	コーディネーター	株式会社まちづくり計画研究所
	上記以外に、久留米商工会議所、久留米商工労働部中心市街地活性化推進室、そしてJSD福岡県まちづくり実行委員長がオブ参加。	

研究会の開催

研究会は、月に1～2回程度、19時半から21時半に六ツ門大学で開催します。前期（6～9月）を「ブランドについての研究」の期間とし、どのような物、取り組みをブランドとするのが相応しいかを研究します。後期（10～3月）を「ブランドづくり」の期間とし、前期の研究結果に基づいたブランド実現に向けて取り組みます。なお、前期の研究結果によっては、実現化のために必要な専門家等を後期の新たなメンバーとして加えることも想定されます。

11月28日現在

開催日	議題
第1回 平成17年06月27日(月)	・ 事業概要の説明 ・ 「地域ブランド」とは
第2回 平成17年07月11日(月)	・ めざすべき商店街像（商店街を見て回った感想など）
第3回 平成17年07月26日(火)	・ 五感に感じる取り組み ・ 商店街ブランドの開発について
第4回 平成17年08月08日(月)	・ 目指すべき商店街像とは？ ・ それを実現させるための「商店街ブランド」は？
第5回 平成17年09月08日(月)	・ 先進地視察報告（黒崎、芦屋、若宮） ・ 「包む」「おもてなし(ほとめき)」「風呂敷」をキーワードにして具現化できるもの
第6回 平成17年09月26日(月)	・ 目的の確認 ・ 「おもてなし(ほとめき)」をキーワードにして具現化できるもの
第7回 平成17年10月18日(火)	・ 後期研究会の進め方
第8回 平成17年10月31日(月)	・ 共通で取り組めるサービスの検討 ・ ほとめきサービスの全体的な整理 ・ 社会実験へ向けての準備・スケジュール
第9回 平成17年11月11日(金)	・ 社会実験へ向けての準備

議事録参照

社会実験

ほとめきサービス

地域ブランド化に向けての第一歩を踏み出すために、まずは有志商業施設において、久留米発の「ほとめきサービス」を実施する。「ほとめきサービス」とは、「ようこそ久留米へ」「ようこそ商店街へ」「ようこそ店へ」という雰囲気を中心市街地に漂い、来訪客を心から温かくお迎えするおもてなしの各種取り組みを意味します。このサービスを実施することで、久留米に対する来訪者のイメージアップが図れるとともに、商業施設関係者自ら久留米の良さを見直すことや、郷土愛を育むきっかけにもつながるものと期待されます。

「ほとめきサービス」は、共通サービスと個店オリジナルサービスの2種類からなり、前者は各商業施設が共通で取り組むサービスを、後者は各商業施設の特性を活かした独自のサービスを目指しています。

ほとめきの店とは

ほとめきサービスの内容を十分理解する商業施設にて、「ほとめきの店」と称し、実験的にほとめきサービスを展開することにする。

「ほとめき」とは、筑後地方の方言で「おもてなし」のことです。久留米の街を愛する私たちは、訪れたお客様をもっともっと大切にしたい！それが私たちほとめきの店の合言葉です。

「ほとめきの店」行動のしるべ

私たちは、笑顔でお迎えます。
私たちは、あいさつをします。
私たちは、街をきれいにします。
私たちは、久留米についてのお尋ねに、親切に答えます。
私たちは、商品やサービスを自信を持って提供します。
私たちは、お客さまがお困りの時に、心からお手伝いをします。
私たちは、お客様とのふれあいを大切にします。

共通サービス

久留米中心市街地「ほとめきの店」マップ

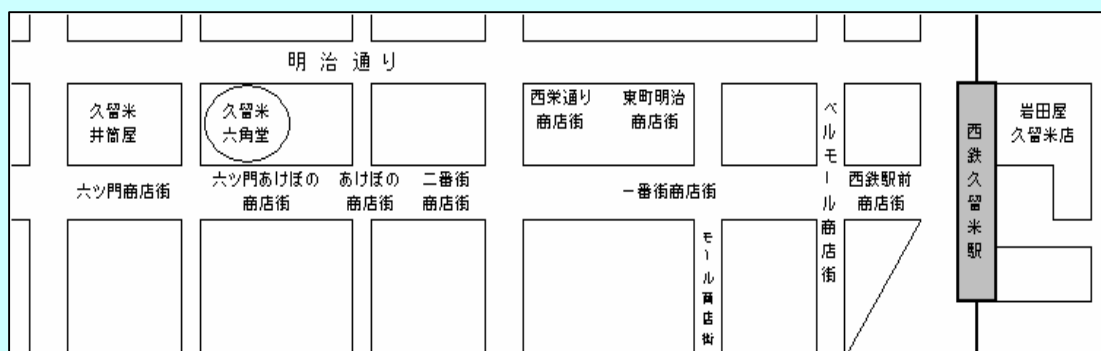
「ほとめきの店」の看板(サイン)

ほとめきカード、ほとめきバッチ など

実験期間

2005年11月25日～2006年1月31日のくるめ光の祭典「ほとめきファンタジー」開催期間

参考久留米市商店街



久留米市ほとめき宣言(都市宣言)

「ほとめき」とは、筑後地方の方言で「おもてなし」の意味です。「家に来たらなら、ほとめくばい。」昔から、筑後地方では、お客様をあたたくお迎えし、心のこもったおもてなしをしてきました。

久留米市は、豊かな自然と名所に恵まれたまちです。そして、全国から訪れるたくさんの方々、私たちの大切なお客さまです。

「久留米に来てよかったです。また来ます。」私たちは、久留米を訪れた方々に喜んでいただけるように、「ほとめきの心」をもって接します。

行動のしるべ

1. 私たちは、笑顔でお迎えします。
2. 私たちは、あいさつをします。
3. 私たちは、街をきれいにします。
4. 私たちは、久留米についてのお尋ねに、親切に答えます。

くるめ光の祭典「ほとめきファンタジー」

2005年11月25日～2006年1月31日西鉄久留米駅東口～明治通り～六角堂広場～六ツ門約1kmを繋ぐ光の祭典です。



2. 久留米商店街視察

- ・くるめブランド研究会の中間報告終了後、メンバー全員で久留米の商店街の視察を行いました。(上記地図参照)
- ・久留米の商店街の入り口には岩田屋久留米店が、出口には久留米井筒屋が位置しており、その1.5kmの間に商店が数百店並んでいます。しかし、久留米の商店街も全体の2～3割のお店のシャッターが閉まっており、商店街の生残り、活性化が急務な状況となっています。その対策の1つとして、今年度初めてメインストリート1.5kmをイルミネーションで飾る「ほとめきファンタジー」が開催されており、その視察も同時に行いました。
- ・商店街の始まり(一番街)は、ヤング系のお店が多く、二番街 あげぼの商店街と井筒屋さんに近づくにつれてミドル・シニア系のお店が増えていきます。そして出口付近にある六ツ門あげぼの商店街は、昭和の町の雰囲気を醸し出す、どこか懐かしい商店街です。
- ・井筒屋さんに隣接している「六角堂」は中心市街地の活性化を目的として整備された広場で、毎週様々なイベントを開催しています。ここの活用も久留米市としての今後の課題となっています。